



Knowledge Integration特集に 寄せて

代表取締役副社長
グローバルサービスインテグレーション部門長

谷口 興彦

現在、私たちが迎えているデジタル化の波は、従来ICTが果たしてきたビジネスの効率や生活の利便性を向上させるといった変化にとどまらず、お客様の事業を大きく揺るがしたり社会の生活様式を一変させたりといった、第4次産業革命とも言われる「デジタル変革」の大きな波です。個人・社会・組織・企業のあらゆる活動がデジタル情報として記録され、そのデジタル情報から従来をはるかに超える精度で気象や交通渋滞の予測ができたり、機器の故障を事前に察知したり、消費者の潜在的な需要を喚起する個人向けのマーケティングが行われたりしています。

また、「デジタル時代の創造的破壊者」と言われる新たなプレイヤーが登場し、デジタル技術を駆使した画期的なサービスで既存マーケットの勢力図をあっという間に塗り替えてしまうデジタル破壊(Digital Disruption)が始まっています。このデジタル破壊は、特定の産業や市場に限られたことではありません。お客様が自ら変革に取り組みこの波を先取りすることが、企業の存続・成長に必要となっています。

富士通は、ICTプロダクトやソリューション、サービスの提供を通じて、ICTの実業務への適用ノウハウやお客様業務の理解など、沢山の「知見」を蓄積してきました。富士通はこれらの事業の中で培ってきた知見を、産業や市場を越えて組み合わせたり、お客様のビジネスに関する知見と組み合わせたりすることによって、デジタル変革の中でお客様の強みを活かした新たな価値を創造する取り組みを提唱しています。このコンセプトを「FUJITSU Knowledge Integration」と称し、2015年に発表しました。更に2016年には、このコンセプトを具現化するための取り組みとサービスを「Knowledge Integration in Action」として発表し、併せてアイデアの創出をお客様と一緒に実践する場として「FUJITSU Knowledge Integration Base PLY」を発表しました。

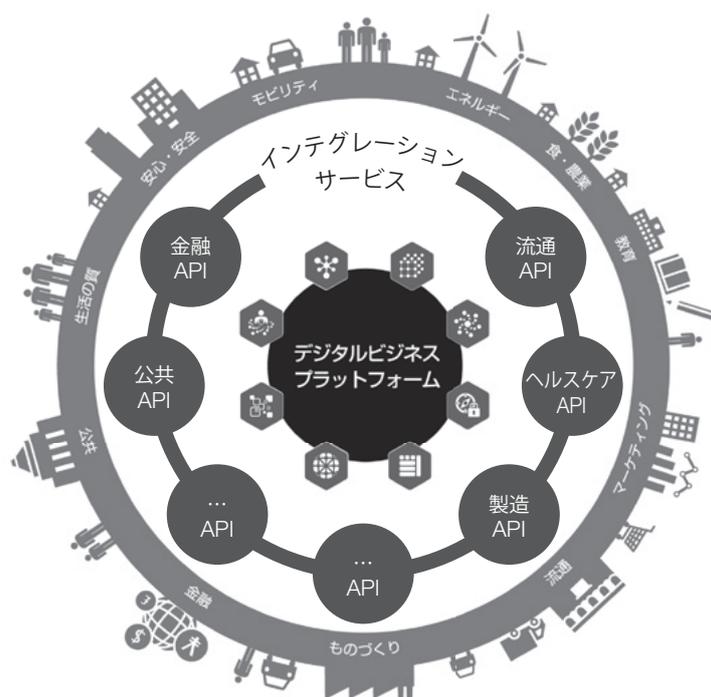
Knowledge Integration in Actionは、発表から一年で様々な実を結びつつあります。この新たな価値の創造に向けた取り組みは、成功が約束されたものではなく、やってみて見直したり別な方法に変えてみたりといった手探りでお客様と一緒に取り組むことが必要です。これを新たな価値の実現を求めてデジタルを旅するというコンセプトとして「デジタルジャーニー」を2017年に発表しました。

デジタルジャーニーでは、富士通はお客様のパートナーとしてチームを組み、新しい価値の創造に向けて一緒に歩みます。

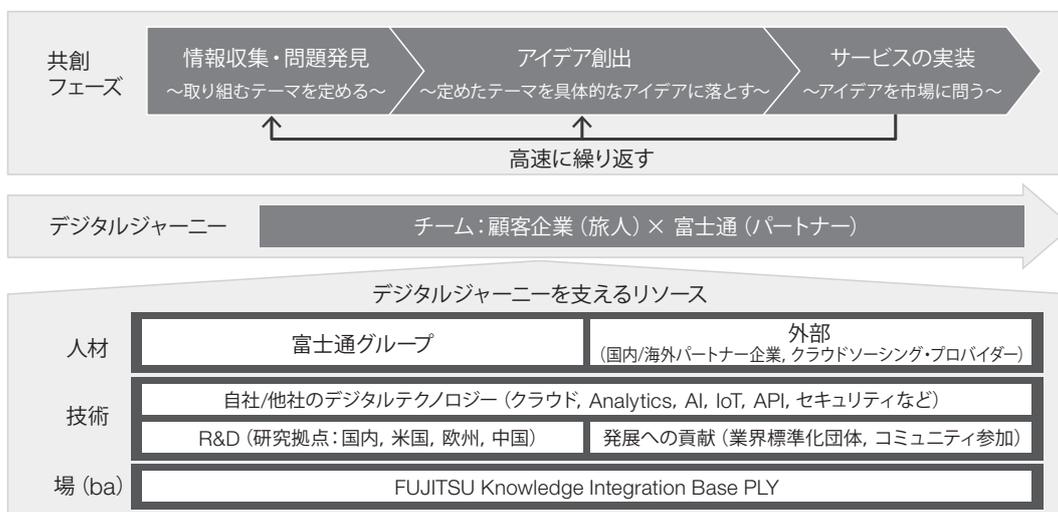
IoT (Internet of Things), VR/AR/MR (Virtual Reality/Augmented Reality/Mixed Reality), AI (Artificial Intelligence), クラウド, アナリティクス, セキュリティ, API (Application Programming Interface) マネジメントといった最先端のテクノロジーの活用は富士通が担います。アイデアを練るための様々な道具(手法,

リファレンスなど) と、開放的な雰囲気の中で創造活動ができるPLYを使って、お客様の知見と富士通の知見を結びつけて様々なアイデアを産み出していきます。そして、アイデアを素早く実装して実際に試し、改善のフィードバックループを高速に回して磨く「共創の取り組み全体像」を道標に、お客様の新しい価値を実現し、デジタル変革の波と一緒に進みたいと考えます。

本特集では、富士通がKnowledge Integration in Actionとして取り組んできました、お客様との新しいビジネスの創出や業務革新の一端をご紹介します。ご高覧いただくとともに、今後とも引き続きご支援・ご指導を賜りますよう、よろしくお願い申し上げます。



FUJITSU Knowledge Integrationによる業種連携



共創の取り組み全体像